

信じられない話：トルドーが本物のナチを称え、ロシアを責める

カナダ首相が国会で元ナチ戦犯を称え、「ロシアのプロパガンダ」を非難
<https://www.infowars.com/posts/incredible-after-celebrating-an-actual-nazi-in-parliament-trudeau-complains-about-russian-propaganda/>

Steve Watson

September 26, 2023

カナダ首相ジャスティン・トルドーは、月曜日、かつてのヒトラー親衛隊員と面会した上、彼を議会に招き、そこでこの 98 歳のナチ戦犯はスタンディング・オベーションを受けた。そしてこれを物ともせず、カナダ首相は「ロシアのプロパガンダ」と「ロシアのニセ情報」を告発した。

次は昨日起こったことの裏話である：――

カナダの下院議長は、議会が現実のナチ戦犯を称えたことに対し、謝罪した。
<https://summit.news/2023/09/25/canadas-speaker-of-the-house-apologises-for-honoring-an-actual-nazi/>

アメリカの政治家 Mike Huckabee のコメント：

ファクト・チェックをせよ――ウクライナのゼレンスキー大統領と、カナダ議会および首相へのメモ：――もしあなた方が反ユダヤ主義者でないと、世界に考えてほしければ、あなた方は、この元ナチ兵士に対してスタンディング・オベーションを行っていないと確認するための背景チェックをせよ。

トルドーは、どういうことが起こっているのか、記者団に訊ねられ、こう言った：――「当然ながら、こんなことが起こって、ひどく当惑している。」そして、彼はそう言うと同時に、下院議長を非難し、「議長は彼の間違いを認め謝罪した。これはカナダ議会にとっても、その延長でカナダ国民に対しても、また特にユダヤ人議員や、全国のユダヤ人社会に対しても、深く迷惑をかけた――今日、ヨム・キップル（ユダヤ人を迫害する者の意）を祝賀し記念するとは！」

彼は次にロシア人に矛先を向け、こう言った：——「私は現在、現実にも最も重要なことは、我々のすべてが、ロシアのプロパガンダやニセ情報を押し返し、ウクライナ支持の断固たる明白な意思を、どこまでも貫くことだと思う。」

信じられない話だ!!

野党のリーダーPierre Poilievre は議会に向って、「カナダ人たちは、自分の目の前で起きていることに決して責任を取らない首相に、嫌気がさし気分が悪くなっている」と言った。そして、「彼はいつも誰か犠牲にすべき人物を探している」と言い、下院議長に向って「あなたがその人物か？」と訊いた。ピエールは、トルドー自身が自ら謝罪することを要求した。・・・

一方、コメディアンの Rob Schneider は、トルドーを激しく叩き、カナダで決まっていた予定行事を抗議のためにキャンセルしたと言った：——

私はカナダへの旅行をキャンセルした。それは私にはできない。これは限度を越えた話だ。トルドーの、あのトラック部隊の平和的抗議への弾圧は、このアドルフ・ヒトラーの親衛隊の一人に対する、カナダ議会による、破廉恥で暴力的な祝賀行事に比べれば、ほとんど無意味に思える。

(以下省略)

関連記事：

英ジャーナリストがトルドーのナチ称賛を暴露し、「悪質情報」 malinformation で逮捕される

<https://www.infowars.com/posts/uk-journo-arrested-for-malinformation-after-exposing-trudeau-applauding-nazi/>

カナダ議会の左翼が、当惑するナチ事件を記録から消そうと苦闘

<https://www.infowars.com/posts/leftists-in-canadian-parliament-seek-to-erase-embarrassing-nazi-incident-from-the-record/>

カナダの下院議長がナチ・スキャンダルを受けて辞職

<https://www.infowars.com/posts/canadian-speaker-of-the-house-quits-following-nazi-scandal/>

なぜカナダ議会は、世界の見ているところで、ナチスに公然と礼拝したのだろうか？

<https://www.infowars.com/posts/nazis-praised-in-canadian-parliament-to-promote-ww3-in-ukraine/>

[訳者 Greatchain 注]

ここに言及されているように、カナダのトルドー首相は、あの記憶に新しいトラック大部隊による抗議運動を弾圧したことで、悪なる権力者として有名になった。今度のこの事件は、「限度を超えた」比較にならない悪だと評者は言っている。特に注目すべきは、ここに添えられた写真のほとんどは、トルドーとゼレンスキーの仲よしコンビで写っていることだ。これは両者が、ナチスの絆で繋がっていて、悪人としてウマが合うということである。

ここで読者の記憶にあるのは、ウクライナ紛争が始まったとき、わが岸田首相が自ら進んで、トルドー首相と（英の“ボージョ”首相とで）スクラムを組んでみせたことである。岸田氏は、トルドーがこれほど過激な親ナチスだとは思わなかったかもしれない。しかし、あの映像がこの事件と重なり合って、我々日本人に対する世界の人々の、これまで以上のマイナス感情を産み出しはしないかと懸念される。これはどうすることもできないだろう。

主流メディアやNHKが、これをどう報道するか、全く無視するかは知らない。報道を強制することはできないだろう。世界をどう切り取って、どう解釈しようと自由であるかも知れない。しかし我々国民が何かを思い込まされて、そのために不利益を被ることがあるとしたら、報道の自由は制限されねばならない。報道は人々への最大の凶器になり得るということである。